

令和3年6月30日

佐賀県知事 様

住 所 佐賀県唐津市京町 1783  
団 体 名 特定非営利活動法人  
ダイアログ・ジャパン・ソサエティ  
代表者職・氏名 代表理事 志村 記世江

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和2年9月28日付け県協第904号及び令和3年2月8日付け県協第2118号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

## 令和2年度寄附金活用実績報告書

事業名	コロナ禍における密ではない形態での障害者雇用の維持
寄附受入額	金 15,000,000 円
事業内容 (いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)	
<p>障害者理解のためのオンラインワークショップ開発事業</p> <p>■期間：2020年8月～2021年3月</p> <p>■場所・会場：オンライン、佐賀市内、東京都港区内</p> <p>■主催者・参加者：</p> <p>主催者…特定非営利活動法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ</p> <p>参加者…ワークショップ形式の障害者理解促進事業に従事する、あるいは従事することを希望している視覚障害者・聴覚障害者</p> <p>■事業の要旨：</p> <p>これまで当法人では、五感とコミュニケーションを楽しみながら障害者理解を行う、エンターテイメント型ワークショップの「ダイアログ・イン・ザ・ダーク・佐賀」などを開催していた。しかし、新型コロナウイルス感染症のため同様の形態での開催は不可能となっている。ここで、「実際に会わなくてもダイアログのコンセプトを伝える・学ぶ」機会をオンラインに設けることを目指し、コンテンツおよび環境の開発を行い、また、障害者の就労の場の維持も行うものである。</p> <p>2021年3月春休み、佐賀の子どもたちと視覚障害者がオンラインで繋がり、一緒に学び合える機会を提供し、子どもたちが多様性を受け入れることができるようにすることを目指す。</p>	
事業実施の成果・効果 (見込み)	
<p>※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、成果・効果の見込みを記入してください。</p> <p>2021年3月春休みに、佐賀の子どもたちが、オンラインでダークのアテンドたちと出会い、学び合っていく場を企画した。ここを一つの目標とし、オンラインでの新たなコンテンツの開発および視覚障害者のトレーニングを重ねていった。障害者とのフラットな出会いによる、多様性理解の促進につなげていくことを企図した。ここには、平成27年度からの3年間、リアルなダイアログ・イン・ザ・ダークを佐賀県内で実施した際のアテンドが再び登場し、当時参加した子供たちが彼らと再会することで、お互いの成長を実感しながら、補完し合う関係を構築していくことで、ダイバーシティ&amp;インクルージョンを身につけたこどもの育成に寄与するなど、佐賀県の特徴を活かした「子育てしたい県」実現に貢献することも目指した。</p> <p>今後は、佐賀の子どもたちと他府県の子どもたちのオンライン上の出会いを視覚障害者が繋いでいき、横との関係性構築を目指していくことで、佐賀県の子どもたちの可能性をより広げることを推進していきたい。</p>	

また、このようなイベントの実施はまだ行えていないが、聴覚障害者のオンラインコンテンツの開発およびトレーニングも同時に行ってきた。

【参考資料：朝日新聞デジタルより】

朝日新聞デジタル > 障害者とふれ合いイベント コロナでオンラインにシフト > 写真・図版



オンライン授業では、視覚障害者が使う白杖（はくじょう）の紹介もあった＝2021年3月26日午後2時10分、佐賀県基山町宮浦、松岡大将撮影



オンライン授業で地図を書く生徒＝2021年3月26日午後2時44分、佐賀県基山町宮浦、松岡大将撮影

## 障害者とふれ合いイベント コロナでオンラインにシフト

2021年4月9日 10時00分

障害者とふれ合い、障害を疑似的に体験するイベントが、新型コロナウイルスの影響で規模の縮小に追い込まれている。このうち佐賀県内で主に手がけるNPO法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」（唐津市）は、子ども向けにオンラインで視覚障害者とふれ合う授業に取り組む。授業にはお互いの理解を深める以外に、もう一つの狙いがある。3月26日の昼すぎ、東明館中学・高校（基山町）の教室に同館の中高生14人が集まった。全盲の講師2人がいる東京とテレビ会議システムで結び、授業が始まる。課題は、身の回りの場所を二つ選び、そこを結ぶ地図を書いて口頭で説明するというもの。ただし、音や匂いなど、視覚以外で情景が伝わるものを三つ入れなければいけない。

生徒たちは、自宅から最寄り駅や学校など、身近な場所を選んで地図を書き、講師に説明する。「道を曲がるとトンネルがあって音が反響する」「風が強い所を左へ曲がる」。地図を2人に分かってもらおうと説明する。最初はぎこちないやりとりだったが、次第に会話が弾んで和やかな雰囲気になった。最後は「時間はどうやって分かるの」「どれぐらい見えないの」といった質問もあった。この授業は、支援したいNPOを指定して寄付できる県のふるさと納税制度の寄付金を利用し、同法人が無償で実施した。昨年3月から始まり、全国の学校で30回以上開いたという。広報担当の脇本ひかるさん（31）は「障害者と身近に接する機会が無く、会ってもどうしていか分からないこともある。ふれ合いで壁がなくなればうれしい」と話す。中学2年の井関心太郎君（13）は、「視覚以外の感覚を説明するのが難しかった。障害者と出会ったときは、大きな声で周りの情報を伝えたい」と話した。このオンライン授業には、障害者の雇用確保という側面もある。もともとNPO法人「ダイアログ・ジャパン・ソサエティ」と同名の一般社団法人はこれまで共同で「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」と呼ばれるイベントを開催。障害者らと参加者が暗闇で視覚以外の感覚を使って共同作業を通じてコミュニケーションを楽しむ企画だった。

両団体は催しに関わる障害者らを50人程度雇っていたが、イベントでは障害者と参加者が手をつなぐなど身体的な接触が避けられず、新型コロナ禍で相次ぎ中止に追い込まれた。協賛する企業からの支援も減って雇用が危ぶまれたためオンライン授業を開き、寄付金を講師の賃金に充てることにしたという。脇本さんは「障害者とのふれ合いはもちろん、鍼灸（しんきゅう）やあん摩など、これまで限られた障害者の働き口を広げる狙いがあるので、活動を続けたい」と話す。団体は授業先の団体・学校を募っている。（松岡大将）

(様式第6号 別紙2)

収 支 決 算 書

事業名		コロナ禍における密ではない形態での障害者雇用の維持	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	15,000,000	第1回交付：0円
			第2回交付：10,000,000円
			第3回交付：0円
			第4回交付：5,000,000円
		収入 計	15,000,000
支 出	謝金	90,732	手話通訳謝金
	旅費	99,000	佐賀⇔東京往復費
	印刷製本費		
	消耗品費		
	使用料・賃借料		
	人件費	774,000	システムエンジニア1名
	人件費	9,171,550	障害者人件費
		翌年度繰越金	4,864,718
	支出 計	15,000,000	

- 支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。  
経理上の区分名で記載して構いません。
- 領収書等は事業終了後5年間保存してください。